

'93ラリーアート賞 "ドライバー・オブ・ザ・イヤー"

ラリー部門

ダートトライアル部門

奴田原文雄、宝田芳浩。CMSC札幌の両選手が受賞!



奴田原文雄 '93全日本ラリー選手権Bクラス
シリーズチャンピオン獲得



宝田芳浩 '93全日本ダートトライアル選手権AIVクラス
シリーズチャンピオン獲得



来シーズンはCクラスへ

'93全日本ラリー選手権Bクラス
シリーズ
チャンピオン
CMSC札幌
奴田原文雄



'93全日本ラリーシリーズ
は、チームイズが撤退したこともあり、Bクラスのシリーズチャンピオンを獲得することは、今シーズンの目標でした。

まず、開幕戦のDCCSウィンターラリーを優勝し、さいさきの良いスタートを切ることができました。TRCAウィンターラリーは準優勝でしたが、続く第3戦ACKスプリングラリーでは、MIVECエンジン搭載の新型ミラージュのデビュー戦、優勝を飾ることができました。第4戦のラリースピリット広島でも予定通りの展開で勝て、ミラージュMIVECのラリーにおけるポテンシャルをアピールでき、又シリーズポイントも一歩リードする形となりました。前半でポイントをかせいだ安心感か、第6、7、8戦と2位に甘んじてしまいましたが、第9戦モントレイで優勝でき最終戦を待たずしてシリーズ優勝を決めることができました。

今年は本当に充実したシーズンでした。この場をお借りして、スポンサー各位様、ならびに関係者各位方々へお礼を申し上げます。私のラリー活動に多大なるご理解、ご援助をありがとうございました。来シーズンは、ぜひCクラスへステップアップし、ランサーでシリーズを戦えればと考えています。

写真上 全日本ラリーBクラスシリーズチャンピオンの奴田原選手の走り。写真下 全日本ダートラAIVクラスシリーズチャンピオンの宝田選手の走り。写真右上 ダート部門表彰の宝田選手（左）、ラリー部門表彰の藤本吉郎選手（中）、奴田原選手（右）



The Fastest を守りたい

'93全日本ダートラAIVクラス
シリーズチャンピオン CMSC札幌 宝田芳浩

11月13日、広島で開催されたオールスターダートトライアルを最後に、今年のすべての競技が終了しました。

今シーズンから乗り換えたランサーエボリューションは、ギャランに比べると動きが俊敏で抜群のトラクションをもつマシン。確実に昨年よりはポテンシャルが高く、実戦前から好成績を狙えることを確信していました。しかし、AIVクラスは同じランサーを駆る榎田選手、北村選手、荒井選手、そしてラ

イバルのインプレッサを駆る山下選手等、強力なライバルが顔を揃え、一戦として気を抜くことが許されない激戦区。前半では好調が続いたものの、後半ではなかなか有効ポイントを得ることができず苦しい展開となりましたが、ついに念願のチャンピオンになることができました。これもひとえに皆さんの支援があったからと感謝しております。来シーズンもまた、誰よりも速いドライバーとしてチャンピオンを死守したいと思います。

会員の皆様の よりいっそうのご活躍を

あけましておめでとうございます。

CMSCが発足して既に30年余。その間、モータースポーツを愛する者達の集まりとして順調に発展し続けて参りました。既に、全国に17支部700余名のメンバーを擁する大組織となったいま、会員の皆様には、今後もCMSC会員であるというプライドを大切にしていだきたいと願うと同時に、これまで

会の発展をずっと支え続けて下さいましたことを、いまさらながら厚く感謝致したいと存じます。

さて、会員の方々にとって、昨年はどう的一年でしたでしょうか。年頭にあたりまして、皆様それぞれに昨年を振り返って感じる事、新しい年に対する期待や希望など、様々な思いがおりだと想像致します。わがCMSCにとりましては、'93年はなかなか充実した一年であったのではないのでしょうか。夏の全国大会には、全国から総勢約230名が集まり、恒例のジムカーナや懇親パーティなどを通じ

て互いに交流を深めました。また、全日本チャンピオンを2人も輩出する等各種競技会等ではクラブ員の活躍ぶり、と、上位入賞の嬉しい知らせが続々と聞こえてきました。各支部の主催大会は、年々盛大になってきていますし、着実にモータースポーツの普及に貢献し続けていると考えております。

最後になりましたが、会員の皆様がさらにいっそうご活躍されることを、あらためてお祈り申し上げます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

(CMSC会長 外川一雄)

CMSC栃木

10月24日

'93スリーダイヤモンドトライアル

前日に雷まじりの雨が降りコースコンディションが心配されましたが競技会当日は朝からさわやかに晴れあがり、コースはややウェットな状態ながらダートトライアルには絶好のコンディションになりました。

今回のダートトライアルは、当クラブとしては1989年以来4年ぶりの開催となります。前回の日光スピードパークでのダートトライアルの反省を踏まえ、コースは丸和オートランド那須でぜひ開催したいとのクラブの意向で、昨年の3月に予約を入れて以来準備に時間をかけてきました。しかし、参加台数は65台と少し寂しいものとなってしまいました。

競技は通称Aコースと呼ばれているもので、1周

表彰式にひと工夫

約2kmのコースを時計回りで周回する設定で行われました。時間にして約1分35秒前後で走行するものです。当初の予定では慣熟歩行はCDクラスのみ行う予定でしたが、参加台数が少ないために全競技車で行くことにしました。

今回は表彰式を今までとは違った方法で行うことにしました。まず、各クラスの上位入賞者にはトロフィーとメダルのみを授与して、副賞のほうは総合成績のタイム順に1品ずつ自分で選んでいただくという方法です。この方法ですと、上位の方には賞品が少なくなりますが、普段は指をくわえて見ている下位の方にも必ず賞品が手渡されることとなります。今回のこの方法は好評だったようで、いつもは表彰式まで参加せずに帰ってしまう方も今回に限っては最後まで参加されたようでした。ローカルイベントにしかできない試みだと思いますが、今後もなんらかの形でこの方法を取り入れていきたいと思えます。



三菱賞1位の笹原選手の走りと、三菱賞1位笹原選手、2位相馬選手、3位牧選手(左より)



(CMSC栃木 町田 俊英)

CMSC山形

9月12日

CMSC山形テクニカルジムカーナ

9月12日、スラローム第1種、東北シリーズ第9戦CMSC山形テクニカルジムカーナを蔵王リゾートサーキットにて開催しました。当クラブも、B地区戦3年目を迎え、より充実したイベントにしようと頑張ってきました。そのかいあってか、今年は失敗も無く最後まで順調に進み、閉会を迎えました。

競技会内容は、台数は昨年とほとんど変わらず、97台とやや淋しい大会となりましたが三菱車が若干増え、マイベックミラーージュが6台、ランサーエボ

充実したイベントを目指し成功!

リュージョンが3台で、各車上位入賞いたしました。特にランサーは昨年まではMR2の独壇場のクラスでしたが、2位と5位に入り、CMSCとしても大変うれしく思いました。

今年は前日に山形三菱自動車主催のドライビングスクールも行い、講師として三菱自動車の木全巖氏を迎え、50名ほどの一般ドライバーのジムカーナ走行の講評もしていただきました。また、木全氏には当クラブのジムカーナにもゲストとして参加して頂き、実況中継もお願いしました。誠に有難うございました。また、オフィシャルの皆さんも2日間をわたり、大変ご苦勞様でした。

(CMSC山形 菅野 茂)



CMSC帯広

10月17日

秋の大運動会トライアル

今年も競技後のジンギスカンパーティーを楽しみに集まった?トライアラー達で、楽しい1日を過ごす事が出来ました。競技の方はジムカーナ顔負けのパイロン区間を設けた為、特にAIVクラスのドライバー達は「腕が棒」になっていたようです。

恒例トライアル&ジンギスカン

結果はAIIIクラスで唯一三菱車で参加の安田忍ミラーージュマイベックが見事逆転優勝/AIVクラスは新日三菱車の戦いとなりましたが、腕の差が出たのかランサー1.8、ランサーEV、ギャラン240PSという順位で競技を終了しました。

(CMSC帯広 青沼 達也)



CMSC香川 10月9、10日

'93CMSCダイヤスタートライアル

四国では初めての全日本戦、'93CMSCダイヤスタートライアルを10月9、10日に全日本選手権シリーズ第9戦として主催しました。

全日本戦主催の話が出てから約3年を経て、やっと実現できました。まずコースの問題が出ました。四国には常設のコースが1つしか無く、そのコースが全日本戦を開催できる広さではなかったからです。そこでコースを捜す(作るのは困難である)ことから始めました。色々候補が上がリ、その中から県の所有地に決定しました。それから県の許可が下りるまで約1年、県庁に通いました。県の許可が下り、開催まで3ヶ月しかありませんでした。コース公認申請と組織申請を同時に出し、それからエントリー向、スポンサー向の書類、ポスター等印刷物の手配を済ませ、次はコース作りの準備でした。何もない所に1週間で(土地を借りる契約は10日間だった)コースを作るのは本当に大変でした。その1週間の半分は雨。予選の2日前は1日中雨で、予選の前日はコースの半分以上が池になっていました。それでもクラブ員が協力し徹夜して何とか開催するに至り

四国初の全日本戦主催!



▲苦勞を積み重ねての開催。クラブ員の方々ご苦勞さまでした。ました。

そして予選、決勝、両日とも晴天に恵まれ大きな事故も無く、'93CMSCダイヤスタートライアルは終了しました。しかしエントリーの方には路面が非常に悪くなったことをお詫びします。そして、たくさんの方のスポンサー、関係者の方に感謝します。

最後になりましたが、私の感想を一言。主催者として反省する点もたくさん出ましたが、大勢の方によくやったと言われうれしかった反面、トップドライバーと呼ばれる人の中に暴言を吐いたり、人間性を疑いたくなるような人がいたことは、非常に残念でした。

(CMSC香川 白井 修)



外川会長挨拶▼



CMSC群馬 9月5日

'93CMSCトライアルin那須

過去には必ず大雨やら、ヒョウとかの悪天候に悩まされ続けてきたCMSC群馬のダートトライアルですが、今回は何と台風が接近しているという事で、開催出来るかどうか危ぶまれていました。ところが、イベント前日になって台風も消滅し、当日はまずまずの天気で行う事が出来ました。

さて競技のほうは、コースクリアに全日本で活躍中の登坂、大井、鳥羽の3選手が華麗な走りを披露。場内が盛り上がった所で、レディースクラスゼッケン1番の今堀選手のミラージュからスタート。当日

レベルupしたCMSC群馬のダートラ

は関東ダートラジュニアシリーズと日程が重なってしまったために総台数が127台と少々少なかったのですが、その分コースを長く設定出来たため、エントリーの皆さんは思いっきり楽しめたようです。

成績のほうは石井選手のランサーEVOが、2位を2秒以上離す激走を見せAIVクラスを制すると共に、総合優勝に輝き、三菱賞の1位を獲得しました。また、今回はいつもオフィシャルとして頑張っているCMSC群馬のチーム員も4人が出場し、3人が入賞するなどよい成績を残すことが出来ました。

今回は、ミスコース1台、転倒1台と大変スムーズに競技を終えることが出来ました。これはコースレイアウトにもよりますが、エントリーのレベルが向上したためでもあると言えます。これからも「C



ランサーで健闘の飯塚選手。フレッシュマン4WDクラスの表彰。

MSC群馬のダートラは面白い」と言われるようなイベントを開催したいと思います。今回のイベントを支援していただきましたスポンサーの皆様、大変ありがとうございました。これからも御支援、御協力をよろしくお願い致します。

(CMSC群馬 小林 正夫)

CMSC岩手 9月26日

岩手三菱ダイヤモンドトライアル

今年も当クラブ主催による岩手県ダートトライアル選手権岩手三菱ダイヤモンドトライアルを、9/26日開催しました。当日、早朝の雨に多少不安を感じましたが、受付をする頃には雨もあがりコースコンディションは上々といったところ。予定通り1号車がスタートする頃には、薄日もさしてきました。

会場の岩手高原は例年のごとくパラグライダーが上空を舞い、色づき始めた岩手山をバックにすばら

紅葉の中の白熱した戦い

しいながめでした。又、ダートラ場の隣には今年からカートコースもでき、試走するカートの音が軽快に響いていました。

さて競技の方ですが、参加台数が昨年より少なかったものの白熱した展開となりました。特にメインクラスともいべきAIVクラスは、ほとんど三菱車で順位を争いました。結果は小山選手がCIII、Dクラスもおさえて、オーバーオールとなりました。

今回の主催にあたっては、本部や他クラブ、スポンサーの方々に心配をおかけしましたが、お陰様で無事終了することができました。(1台転倒車がありました)ありがとうございます。来年はダートラ



とジムカーナを主催することになります。今後ともよろしくお願いいたします。

(CMSC岩手 工藤 守)

CMSC仙台

11月14日

もみじ狩りダートトライアル'93

去る11月14日「CMSC仙台もみじ狩りダートトライアル'93」が開催されました。当日は前日からの雨が降り続き、コースには雨水の流れる川ができる程の超最悪コンディション。しかし、今回から宮城県ダートトライアルシリーズも組まれている事も手伝って、エントリー台数はなんと86台!!今までにはない程の盛り上がりを見せました。

コースは外周で1回フルターンを入れた、内周がメインのコースだったのですが、内周に来る前にスタックする車が続出!!ドライバー達も思ったよりも車が前に進まないためか、アクセルを踏みすぎて逆に深みに…。その様な中、平然としてコースをクリアしてくる1台のマシン。それはFRのランサー

雨中の決戦に大番狂わせ!



インタークーラーターボドライバー、大武選手。4WD勢が四苦八苦する中を、FRがスイスイとかわす大番狂わせ。これにはエントラントもオフィシャルもビックリした様子でした。

表彰式の後、ジャンケン大会等でエントラントと盛り上がり、「もみじ狩りダートトライアル」は終了しました。来年は県シリーズも5戦に増える予定ですので、また数多くのエントリ



ーをお待ちしています。

(CMSC仙台 柿崎 博史)

CMSC山形 小川日出生

ミラージュカップ

F1レース開催の地、鈴鹿サーキットでミラージュインターレース第5戦が行われることになり、胸ときめかせて鈴鹿入りしました。

全く初めてのコースでの練習走行が始まりました。足廻りのセッティング、エンジン調整、いろいろやってみても思うタイムが出ません。気持ちはあせるばかりです。フロントホイールを大きくしてタイムアタックしたとたん、みるみるうちにタイムアップしてきました。これならいける!!と思った残り5分ぐらいの時でした。思いがけないアクシデント。高速からターンするスプーンカーブで、4速全開から

残念!初リタイア

(90km/h)ブレーキングそして3速へダウンするその時、ブレーキホースが破裂してしまったのです。ブレーキペダルをトゥーボードまで踏み込むが圧力が出ず、全くのノーブレーキ状態になったのです。一瞬「あー駄目だー」と思いました。スポンジバリアに激突だ!!と思った瞬間、左手がサイドブレーキにかかりました。スピーターでサンドストップ。大事故にならずに本当にラッキーでした。「予選に出れる」とほっと胸をなでおろしました。この破損はスタッドボルトの大きいホイールだったため、ブレーキホースと接触してしまいホースを削っていったためとわかりました。

時間的、精神的にも余裕のない状態で迎えた予選はトップから1.7秒落ちの10番手。私としてはまあまああのポジションです。決勝スタート直後、オープニ

ングラップ最終コーナー手前のシケイン(セナとプロストがブレーキ競争したあの場所)で後続車にブッシングされエンジンストップ。21番手まで後退してしまいました。気を取り直して1周、1周、1台2台と抜いていくのですが、気持ちばかりがいそいで集中力が欠けていくのが自分でもわかるようでした。いつものドライビングが出来ず自らブッシングをしてしまい、その結果ラジエーターが破損。オーバーヒートを予測してリタイヤするハメになってしまったのです。

ミラージュレース30戦闘って初めてのリタイアで今でも残念でなりません。一つのトラブルがいつもでも尾を引くことを実証、絵に画いたようなレースでした。

群馬さらにリード。山形のV7阻止目前。

'93チャレンジカップ

前回までの集計で山形を逆転した群馬は、さらにリードを広げ逃げ込みに入りました。ダートトライア

ル部門で首位に踊り出た大井こずゑ選手の貢献が大きかったもよう。さあ、いよいよ大詰めです。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
群馬	477	669	487		1633
山形	598	511	411		1520
青森	462	471	90		1023
帯広	269	429	228		926
岐阜	385	264	272		921
広島	172	408	286		866
福島	173	157	385		715
岩手	227	266	194		687
札幌	282	315	12		609
香川	312	102	50		464
千葉	125	94	154		373
島根	163	103	100		366
大阪	17	62	172		251
仙台	29	75	33		137
栃木	70	9	36		115
愛知	97	5	0		102
埼玉	14	10	0		24

●ラリー・ドライバー部門

奴田原文雄	札幌	210
岩根つもる	広島	168
勅使川原光	千葉	164
小林康弘	帯広	162
丹羽浩道	千葉	126
渡辺俊昭	山形	112
三谷義和	千葉	80
中島律	広島	74
対馬雅人	青森	60
中田裕二	大阪	56

●ラリー・ナビゲーター部門

佐藤忠宜	福島	202
岡田祥昌	広島	168
伊吹浩明	帯広	146
近藤佐江子	広島	74
朝岡達也	愛知	70
今野泰正	山形	64
対馬隆志	青森	60
内田昭佳	群馬	44
青木功	栃木	43
横田浩一	広島	38

●ダートトライアル部門

大井こずゑ	群馬	429
荒井信介	群馬	413
榎田正文	岐阜	403
宝田芳浩	札幌	364
赤羽政幸	山形	344
菅野茂	山形	309
北村和浩	岐阜	302
大井義浩	群馬	270
岩田恒廣	群馬	240
及川光政	岩手	227

●ジムカーナ部門

小館久	青森	322
須田行雄	福島	282
上泉晃祥	福島	176
鈴木日出明	山形	57
葛西満	青森	56
杉坂啓一	島根	52
青沼達也	帯広	38
斉藤剛栄	青森	27
鈴木正孝	福島	27
伊藤良伸	島根	25

●レース部門

小川日出生	山形	88
今野広志	仙台	42
瀬在仁志	埼玉	24
高橋滋	仙台	12
荒井信介	群馬	12
小出辰彦	愛知	10
吉沼昭彦	栃木	10

●ポイントのつけ方

ポイント	順位											
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位以下		
A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

リタイアには予選通過も含む

A = 全日本選手権、地方選手権

但し、ダートトライアルにはオールスターダートトライアル
ジムカーナにはJAF CUPジムカーナ
レースにはフォーミュラ・ミラージュ、ミラージュカップを含む

B = それ以外の競技会